GRAFFITI TOWN

地方の中心市街地の衰退や空洞化が問題となって久しいが、その要因はモータリゼーションの進展に伴う大規模集客施設や居住の郊外立地化といったものだけでなく、空き家や空き店舗の存在によって中心市街地自身が放つ衰退しているというイメージにもある。従って、衰退のスパイラルから抜け出し再生への契機を得るには、一時的にでも人々を中心市街地に呼び込みむことで市街地自身が放つマイナスイメージを払拭することがまずは重要である。

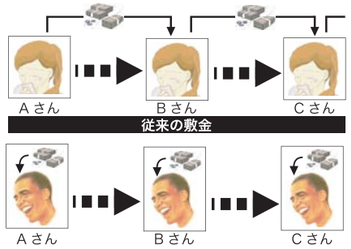
本提案では中心市街地一帯の空き家や空き店舗を壁ではなく**「色」によって分節するという空間の作り方によって一時的な住まいや店舗として利用可能な空間を提供し、中心市街地再生の契機をつくるための街での住み方**を提示する。

色を用いた空間分節による改修は簡易であるため、デザイナーの卵等の駆け出しや若い家庭等、経済的に余裕が無く短期間の居場所を求めている人々を一時的にでも街に呼び戻すことが可能である。また色は人々の心理に残すイメージも大きいため、街のイメージ形成に大きな効果を持つ（下、【図 1】〜【図 4】参照）。

街並を彩った**グラフィティ（Graffiti）**がニューヨークの新たなイメージを形成してヒップホップ等のカルチャーを生み出し、危険な街というイメージの払拭に成功したように、窓から見える多彩な空間や室内から路上に零れる千紫万紅の光は、疲弊して色あせてしまった街に色と人々を連鎖的に取り戻し（【図 5】【図 6】参照）、中心市街地再生への一歩を踏み出すに違いない。

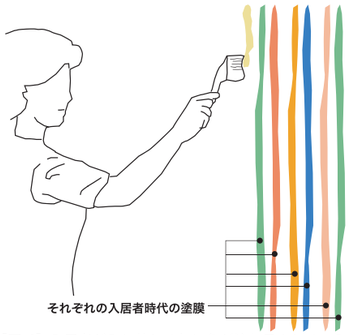
【衰退した中心市街地】

【図 1】膨張や収縮、触覚や温冷感等の色の持つ心理効果を利用して空間を機能や用途等の各個人の要求に従って分節する。



【図 3】従来の敷金は壁紙の張り替えなどの次の入居者のための修繕費として使われている。しかし、**GRAFFITI TOWN** では入居者自身が入居の際に DIY できるため、自分自身の改修費として使える。

【図 2】色による空間分節は間仕切壁の撤去や新設を伴わない簡易なものであり入居者自身が改修工事を行えるために改修費も抑える事ができる上、【図 3】のように賃貸物件における敷金の異なった使い方も可能となる。



【図 4】入居者が入れ替わる毎に色が塗り足される。入居者の多くは **GRAFFITI TOWN** に永くはいないかもしれないが、ここにいたという記憶が塗膜の地層として蓄積される。

Before（【図 5】）

GRAFFITI TOWN の噂を聞きつけて集まってきた人々。職業はいろいろですが、デザイナーの卵やアトリエを初めて開設する等のように **GRAFFITI TOWN** を今後の活動の足がかりにしたり、単身赴任先の住まいを求めている等、皆さん、この街に少しの間でも住みたいと考えて集まって来ました。

入居希望者 ❶
KANAKO さん（主婦・3 人家族）

子どもが生まれたのを契機に新居を探していたところ、色にで部屋をつくるというコンセプトの **GRAFFITI TOWN** の噂を聞きました。私にとって壁が無くて子どもに目が行き届き、また壁に落書きされても色を塗ることで簡単に修繕もできて、退居時も楽な空間はとっても魅力。将来のマイホーム貯金もできる。旦那さんもとても気に入ってくれたので **GRAFFITI TOWN** に住むことを決めました。

入居希望者 ❷
KENTARO さん（画家・独身）

夢だったアトリエ開設を決断。大家さんの説明によると、壁や床、天井に自由に好きな色ペンキを塗っても良いらしい。アトリエをアイディアが生まれるような空間にしたいと思っていた僕にとってまさに打って付けの物件。空間自体も作品になるだろうから多くの人に僕の作品を見てもらえるかもしれない。という訳で **GRAFFITI TOWN** にアトリエ第一号を設けることを決めました。

After（【図 6】）

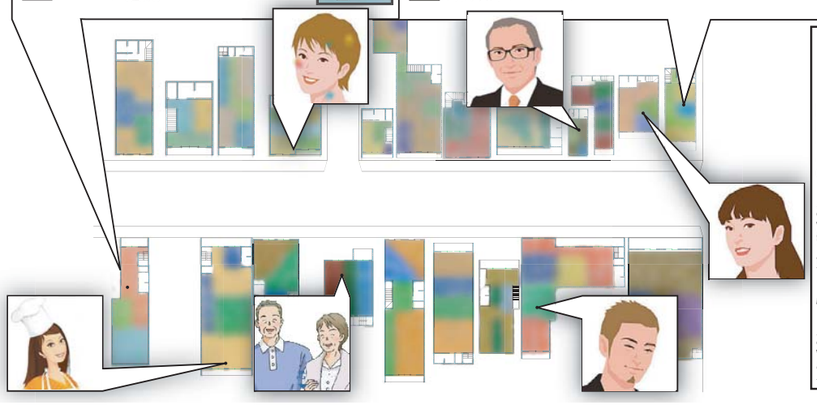
下は **GRAFFITI TOWN** の利用を決めた人々がそれぞれの思いで色を塗り改修した空間の平面図。機能や用途に従って色が決められていますが、人の色の選択には好みや個人差があるため、個人のパーソナリティが現れ易い。このような多様なパーソナリティの集積が街の元気なイメージをつくるのです。

家族 3 人がにぎやかに過ごせるように、はつらつとした雰囲気の色にしました。それにこの家で過ごす間に子どもが感性豊かに成長するように鮮やかな色使いも心がけました。幸せいっぱいの生活が出来そうで楽しみです。

- 寝るスペース（寝室）
- 家族とにぎやかに過ごすスペース（居間・食堂）
- 旦那様がゆっくりと読書等をするスペース（書斎）

1 階をギャラリー、2 階を仕事場兼居住空間としました。2 階については（右図）リラックスしてアイディアが生まれるような空間にしたかったのでヘルシーでリフレッシュできそうな色使いとしました。

- 絵を描くためのスペース
- 仕事中にリフレッシュするための休憩スペース
- 食事やくつろいだりする仕事時間以外のスペース



22149：迫寿憲＋恒見裕貴